



広島・長崎 原爆投下 71年目の夏 核兵器のない世界を



三井寺にて、黙とうをするふしき県議

人類が初めて原爆の惨禍に見舞われてから71年目の夏を迎えました。

今年も広島に原爆が投下された8月6日、三井寺で「原爆犠牲者慰霊法要・世界平和祈願法要」がおこなわれました。

広島で被爆し、この1年に死亡が確認された原爆死没者は5511人となり、合わせて30万3195人となりました。広島、長崎で被爆し、被爆者健康手帳を持つ人は3月末現在で17万4080人。前年より9439人減りました。平均年齢は80・86歳となりました。

4月に開始された「被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」で、広島県被団協など広島の被爆者7団体は初めて共同し、協力を呼びかけています。

「後世の人々が生き地獄を体験しないように、生きている間になんとしても核兵器のない世界を実現したい」(ヒバクシャ国際署名)「病気に苦しむ被爆者が裁判を起こさなくてもいい制度にしてほしい」。こうした被爆者の訴えに真摯に向き合う、被爆国にふさわしい政治を一刻も早く求めます。

キンカン行動 200回目

原発ゼロ、再稼働反対の運動をさらに!!

全国各地の粘り強い取り組みが、どんな世論調査でも、再稼働反対は5～6割とゆるがない多数派になっています。大津地裁では、高浜原発3、4号機の再稼働を認めない決定を下し、引き続き、運転できない状況をつめています。

福島原発事故から5年余りがたっても、福島県ではなお9万2千人が避難生活を余儀なくされています。故郷を奪われ、避難生活が長引くもとで、被害が深刻化しているにもかかわらず、賠償が打ち切れようとしています。福島の深刻な現状にもかかわらず、安倍政権が、原発再稼働や原発輸出のために、「福島原発事故を終わった」ことのようにしていることは絶対に許せません。参議院選挙では福島選挙区で野党統一候補が、現職閣僚に競り勝ちました。原発事故の被害で苦しむ福島県民を切り捨てる安倍政権への審判がくだったのではないでしょう。川内原発ただちに止めよ、すべての原発動かすな、老朽原発絶対廃炉、一緒に声をあげていきましょう。

「原発ゼロ」、「再稼働反対」をかけた、毎週金曜日におこなわれている「キンカン行動」が、滋賀県で7月22日、200回目を迎えました。当日は参加者がリレートークを行いました。ふしき県議の訴えを紹介します。



みちよの
かけ歩き(記)

市道の段差解消・空き家対策など改善がはかられました。

ふしき事務所では、普段から様々な相談をお受けしています。

空き家の庭の木々が多い繁り、近隣の住居まで進出してきている問題では、市の「空き家対策室」に相談。市が所有者をさがして、連絡をし、年内には対応していただけることになりました。

長等市民センター付近の市道の段差解消や、大津日赤病院付近の下水道マンホールの修繕など、改善がはかられました。

すぐに解決できない問題もありますが、お気軽にお寄せ下さい。

(ふしき)



生活相談会をおこなっています。

8月22日(月曜日)午後2時～5時

ふしきみちよ事務所 秘密厳守・無料

2016年 8月9日 発行：ふしきみちよ事務所
大津市末広町4の4 Tel・Fax 077-523-0334
メール mfushiki@beach.ocn.ne.jp

ふしき みちよ

検索